

平成28年度

施設会計事業報告

## 平成28年度施設会計（こがね保育園）事業報告

### 1. 運営方針

平成28年度早々、熊本地震が発生し余震の続く中、人命を守ることを大前提に安全対策の徹底の強化を図らなければならないと痛感させられた一年となった。職員の共通理解・防災訓練の重要性をミーティング等で幾度となく話し合いを行った。

平成27年度始まった子ども・子育て新制度は、待機児童解消に向けて、国全体の懸案事項である保育所・保育士不足解消に向けた施策として職員処遇改善等に反映されたが、29年度からは、処遇改善Ⅱとしてキャリアアップ体系が計画されている。職員の労務管理も充実させ、働くことへ生甲斐を感じられるような職場作りを心がけたい。

また、当園の保育理念『子ども一人ひとりを大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指す』を念頭に、児童福祉法の精神に則り保育に当たってきたところである。職員相互による連携の徹底を図りながら、一人ひとりの子どもをしっかりと受けとめ、子ども達にとって最善の利益となるような保育を提供できるよう、保護者にとって安心して預けて頂ける保育所となるよう取り組んできたつもりではあるが、まだまだ改善すべき点は多々感じられる。職員の意識は高まりつつあるので、内容の充実を図りながら更なる職員の意識向上に努めていきたい。また、今後も保育の質の低下に繋がらないように創意工夫しながら保育にあたる一方、儉約・節約にも心がけていきたい。これからも更なる安定した保育所運営ができるよう、福祉の心を忘れることなく、理事・監事各位のご支援を賜りながら、自治体、保護者等と密に連携を取り努力していきたい。

### 2. 児童定員及び利用

平成28年度も定員の弾力的運用を行い、定員以上の児童の受け入れを行う体制を整え、実施できた。

開所時間延長保育は昨年より利用者が増加、補助事業は30分延長の該当となった。他の事業は若干利用者数に変動はあったものの、保護者・地域のニーズに応える事が出来たように思う。今後も子育て家庭に対する支援の強化に努めていきたい。病後児に対しては、利用する家庭はあったが、保護者へ浸透できなかった。登園後の体調不良（発熱・消化不良等）による児童に対して家庭からのお迎えが可能な時間まで安静に過ごせるよう看護師の観察の下、利用することは多かった。29年度は体調不良型病児保育事業を新規事業を開始し、就労等で困っておられる家庭への更なる支援の強化を図りたい。

#### ☆平成28. 4月～7月（定員 40名）

0歳児……………4名	1・2歳児……………8名	3歳児……………7名
4・5歳児……………21名	<u>合計</u> 40名	

#### ☆平成28. 8月～11月（定員 40名）

0歳児……………6名	1・2歳児……………8名	3歳児……………7名
------------	--------------	------------

4・5歳児……………21名      合計      42名

☆平成28. 12月～平成29. 3月      (定員      40名)

0歳児……………6名      1・2歳児……………8名      3歳児……………7名

4・5歳児……………22名      合計      43名

- ★ 延長保育利用者延人数……………613名
- ★ 休日保育利用者延人数……………71名
- ★ 一時預かり保育利用者延人数……………75名
- ★ ミニ学童保育利用者延人数……………410名
- ★ 病後児保育利用者延人数……………6名

### 3. 職員配置

平成28年度は、途中入所児童があり、職員のクラス移動を行い、対応した。  
園長1名・主任保育士1名・保育士6名・パート保育士3名・調理員1名・准看護師  
1名・事務職員1名・運転手1名の計15名の構成で運営した。

職員採用・退職      無

### 4. 運 営

#### ① 保 育

日中長時間保育園で過ごす子ども達が安心して快適に生活できるようにより良い環境作りを心がけ、事故防止を念頭に置き、個々の子どもとの関わりを大切にしながら信頼関係を構築できるように保育にあたった。また、28年度から導入した漢字絵本を基に静の時間、体育・音体教育を基とした動の時間を設け、年間計画に基づき、季節に応じた活動のバランスを考慮し、年齢・発達に合わせた保育が展開できたように思う。

保護者支援においては、連絡帳、個人面談等で家庭との連携を密に取りながら、お互い協力しながら、子ども達の健やかな成長へと結び付けられるよう心がけた。

#### ④ 給食・食育

毎年、食中毒の発生・警報が報じられる中、事故もなく1年間無事に給食を提供できたことに感謝している。しかし衛生管理面には十分配慮しているつもりだが、改善すべき点もあり、再度見直しの必要性を思う。

保育室と連携しながら個々の状態を把握し、嗜好品・残菜に配慮しながら、バランスのとれた献立作成を心かけた。子ども達の食の環境は決して満足のいくものではなく、「今日は味噌汁はありませんか?」と言ってくる子どももおり、ほぼ每日一汁二菜の昼食は本当に良かったと思う。

食育活動では、毎月のお誕生会に行うマイおにぎり作り、野菜の栽培・収穫、クッキング等子ども達は喜んで取り組んでおり、食への関心も高まったように思う。

保護者に対しては毎月の給食便り等にて食育啓発を行っているが、保護者の関心がまちまちであり、「食」の大切さを子どものみならず保護者に対しても根気強く伝えていきたい。

#### ⑤ 健康・保健衛生

毎月発行の保健便りを利用し、その時期に応じた感染性疾患の症状や予防法等知らせているが、こまめに見て頂く家庭は多くないように感じた。平常も室内の換気、保育室の加湿器使用、次亜塩素酸ナトリウム使用の清拭など行っているが、実際感染性疾患が増加しそうな時期になると、感染症等の蔓延が阻止できるように、また、快適に過ごせるように緊張感をもって行った。園内で罹患者が発生した場合、玄関に罹患者数等掲示することにより、保護者に対する注意喚起となった。また、感染予防について手洗い・うがい等の自分でできる予防はこまめに指導し、随分徹底できるようになった。

#### ⑥ 安全対策

年度早々、熊本地震発生では身近なことで緊迫感も増し、危機管理の重要性を痛感した。余震の続く日々を経験した子ども達の行動では、警報が鳴る度真剣な顔で避難することができ「自分の命は自分で守る」ことが身に付いていることに感心した。

また、これまでの計画を基に見直しを行い、計画・実施した。大切な命を守る防災・防犯・交通の安全教育を行う中で理解も深まり、保育者の話をしっかり聞き、指示に従って速やかに行動できるようになってきたと思う。

反省として、保育者の事前打ち合わせを行っていたにも関わらず、実際となると突発的なことが多々生じ、保育者同士の声の掛け合いながら協力し、子どもたちを無事に安全なところへ避難させることを第一に考え、これからの安全教育・訓練にあたりたい。

#### ⑦ 環境保全

毎日園内・園庭等確認し、子ども達が安全に快適に過ごせるよう配慮したつもりであるが、犬・猫等の侵入で排泄物があったり、プランターが倒れていたりで行き届かなかった面も多々あった。また、電気の消し忘れ、エアコンの温度調節、水道の閉め忘れ等もあり職員の意識、子ども達への指導も徹底できていなかったように思う。今後は反省を基に、環境保全に努めたい。

#### ⑧ 研修等

園内研修では、危機管理・衛生管理・発達障害等々行い、再確認とともに研修内容の共有を図り、自己研鑽に努めた。

園外研修では、郡保育協会主催の研修会への参加、他の保育団体等の研修会へも可能な限り参加し、研鑽を深め、質の向上に結び付けられるよう努めた。